

2025 年度 自己評価計画書

星稜中学校

「成果指標」について

それぞれの項目の成果指標は、学校生活アンケートと保護者アンケートの下記の質問番号の回答により、
A：できた(80%以上)・B：概ねできた(70%以上)・C：やや不十分だった(60%以上)・D：不十分だった(60%未満)の4段階で達成度を判断する。

※学校生活アンケートの場合は「できている・概ねできている」を選択したパーセンテージ。

※保護者アンケートの場合は「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」を選択したパーセンテージ。

- | | |
|---------|--|
| 生徒支援 | ① 学校生活アンケート ①
② 学校生活アンケート ②・③・④
③ 学校生活アンケート ⑤
④ 学校生活アンケート ⑥・⑦ 、学校評価アンケート ⑩ |
| 学習・進路支援 | ① 学校評価アンケート ①・②・③
② 学校評価アンケート ⑦
③ 学校生活アンケート ⑨ |
| 部活動 | ② 学校生活アンケート ⑩ 、学校評価アンケート ⑧ |

具体的な取り組み		現 状	評価の観点 達成度判断基準
生徒支援 ―けじめのある生活習慣が身につくように、生徒の自律した行動を支援する―			
①	けじめのある学校生活を送るために、登校時間の守り、授業はチャイムと同時に開始できる習慣を身につける。	昨年度、生徒会で3分前着席を実施したが、年間通して支援することができなかった。今年度は、授業担当者にも協力を得ながら、地道な支援を心がけたい。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
②	礼儀作法を身につけ、場に応じた挨拶や振る舞いができるようにする。また、正しい言葉遣いの励行を通して、より良い人間関係を構築する。	部活動に参加している生徒は、中学生らしい元気な挨拶が身についている。しかし、一般生徒への指導は不十分であった。また、友人同士の言葉遣いも気になる場面が見られた。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
③	日頃から身の回りの整理整頓を心がけ、より良い学校生活を送るために、落ち着いた環境づくりに努める。	教室内やロッカーが整理できておらず、廊下にも荷物が多くある。机の中で教材やプリントが散乱している。落ち着いて学校生活を送るために目配り、気配り、心配りを大切にさせたい。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
④	自転車マナー・ヘルメットの着用など交通法規を守り安全な登下校に努めさせる。	警察署の方を招いての交通安全教室や、自転車通学説明会などを実施している。ヘルメットの着用は徹底されているが、顎紐を緩めている場合がある。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
学習・進路支援 ―6年間の一貫指導における難関大学への進学を目指す。―			
①	学力向上のために、習熟度別授業・実力試験・補充授業等を積極的に実施するとともに、毎日の家庭学習を定着させる。	習熟度別授業は、数学・英語で実施している。家庭学習の定着のために各教科の連携が課題である。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
②	学習と部活動の両立を目指し、生徒がそれを実現できるように配慮し、支援するように努める。	期末評価で成績基準に満たない生徒対象に、個別指導を行なっている。また、各学期末に確認テストを実施している	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった
③	ICT教育の導入により、タブレットPCを授業や家庭学習で活用し、学習の効率向上に役立てるように努める。	授業や家庭学習・行事において積極的に活用している。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった

部活動 ―全国大会の出場を目指す―			
①	部活動での全国大会出場を目標とする。	2024 年度は、野球部が春の全国大会で 2 年連続 4 回目の優勝を果たした。サッカー部が地元全中に出場し、ベスト 16 に進出した。トランポリンも世界レベルで活躍中。	成果指標 A：4 競技以上出場 B：2～3 競技出場 C：1 競技出場 D：全国大会出場なし
②	部活動に対して十分な指導と支援を行なうことによって、生徒の技能が向上するとともに、人間的にも成長できるように努める。	顧問同士が常に切磋琢磨しながら生徒と向き合っており、生徒と共に成長する姿勢がある。そのため生徒と顧問の関係も良好で、日々生徒の成長を感じられる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった